

マテリアルな側面特定のプロセス ステークホルダーエンゲージメントにより マテリアルな側面を特定

本報告書では重点的に取り組む六つのテーマを選定し、「CSV戦略」として位置付け、活動のさらなるレベルアップを図っています。

テーマの選定にあたっては、まずGRIガイドラインG4の特定標準開示項目における46側面の優先順位付けを行いました。順位付けの基準となったのは、さまざまな場でいただいたステークホルダーの方々のご意見と当社の「企業理念」および「サステナブル・ビジョン」です。

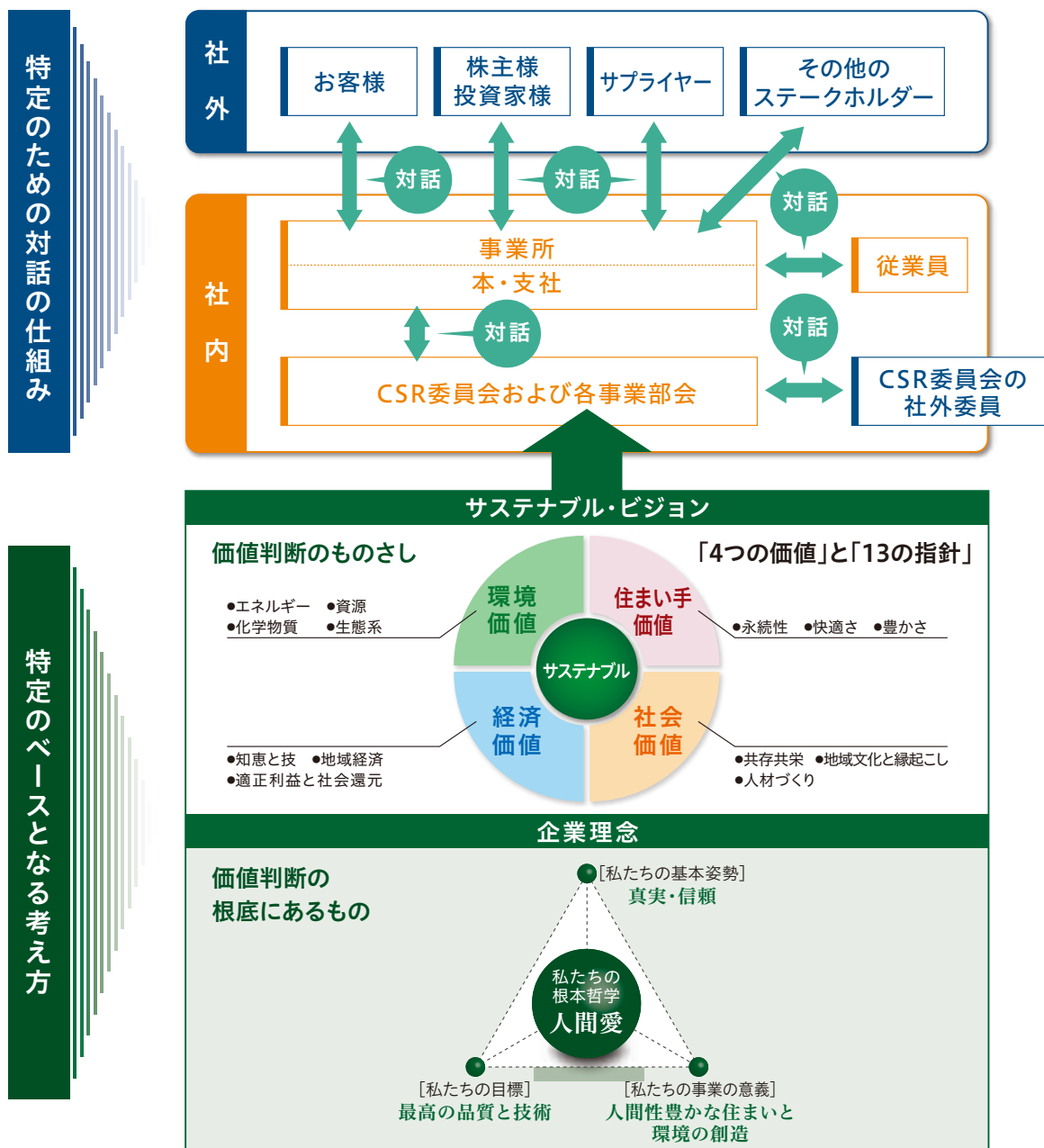
最終的に社外有識者を交えたCSR委員会で30のマテリアル(重要)な側面に絞り込みました(右ページ下の表)。

それぞれの側面についてバウンダリ(対象とする事業体の範囲)も設定しました(P.76参照)。そしてこれらの側面を具体的なCSR活動レベルに束ね、六つの「CSV戦略」を定めました。

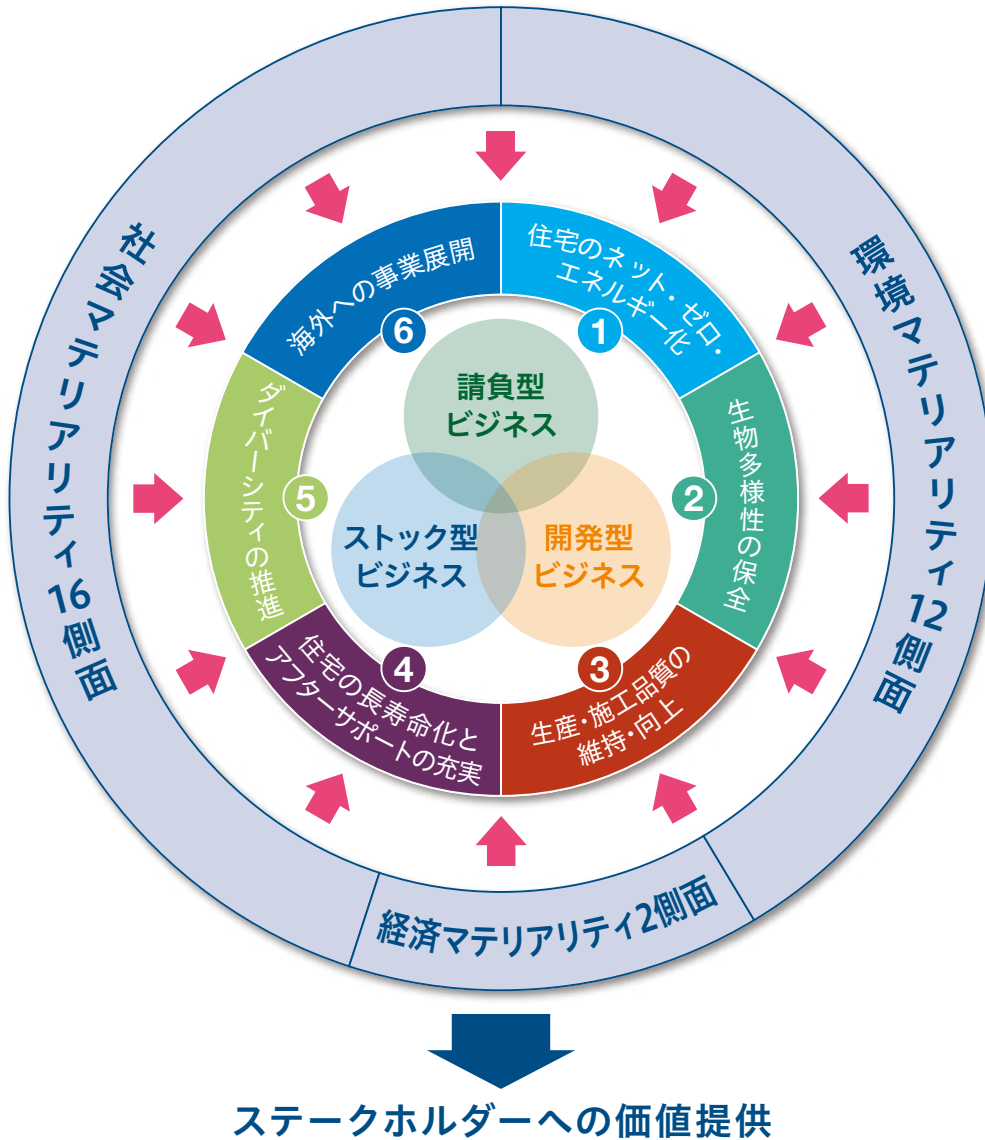
マテリアルな側面とCSV戦略の関係は右ページの図をご覧ください。

積水ハウスグループは、ステークホルダーの期待に応えながら本業を通じたCSR活動に注力し、価値を創造することにより、持続的成長を目指します。

マテリアルな側面を特定したプロセス



特定したマテリアルな側面とCSV戦略の関係



ステークホルダーへの価値提供

30のマテリアルな側面

経済 (2)	○経済的パフォーマンス ○調達慣行
環境 (12)	○原材料 ○エネルギー ○水 ○生物多様性 ○大気への排出 ○排水および廃棄物 ○製品およびサービス ○コンプライアンス ○輸送・移動 ○環境全般 ○サプライヤーの環境評価 ○環境に関する苦情処理制度
社会 (16)	労働慣行とディーセント・ワーク(4) ○雇用 ○労働安全衛生 ○研修および教育 ○多様性と機会均等
	人権(3) ○投資 ○人権評価 ○人権に関する苦情処理制度
	社会(4) ○地域コミュニティ ○腐敗防止 ○反競争的行為 ○コンプライアンス
	製品責任(5) ○顧客の安全衛生 ○製品およびサービスのラベリング ○マーケティング・コミュニケーション ○顧客プライバシー ○コンプライアンス